

日本とタイとの外交関係樹立百三十周年に当たる、この喜ばしい節目の年に、私は外務大臣に就任し、閣下と共にお祝いできることを大変うれしく、また、光栄に思います。

日タイ両国の交流は、六百年の歴史があると言われております。両国の交流の歴史を紐解くと、六百年前には御朱印船によるタイ交易を通じて、タイの首都アユタヤでは、日本人町が形成されており、また、徳川幕府とアユタヤ朝の間でも献上品や書簡の交換が行われておりました。その後も、両国は伝統的に友好関係を維持し、一八八七年に日タイ修好宣言により正式に国交を開始しましたが、この宣言は、当時の日本政府が東南アジア諸国と外交関係を結んだ最初の条約でした。タイは、東南アジア諸国の中で、日本と最も長い歴史を有する国です。

近年は国民から敬愛を集める皇室・王室の親密な関係を基礎に、政治、経済、文化、芸術、科学技術、スポーツ、観光、教育、学術研究等の幅広い分野で、NGO等の草の根レベルも含めた両国の国民の間で、大変活発な交流が行われており、両国間の

友好協力関係は着実に発展及び進化しております。日本からは年間約百四十万人以上がタイを観光、商用等の目的で訪問し、タイからの訪日客も年間九十万人を超えておりますが、この数字は両国の活発な交流を示す証左であります。

日タイ両国の交流の歴史は、政府と民間を問わず、日タイ関係に携わってきたすべての方々が築き上げてきたものです。修好百三十周年のこの年は、両国民の相互理解が一層促進され、且つ、両国の歴史を振り返りながら、未来に目を向け、両国の悠久の歴史の延長線上に歴史を築く上で、二国間関係の新たな展望を拓く絶好の機会だと考えております。このような視点で、私は、日タイ友好議連の幹事長を務めてきたこれまでの経験も活かし、今後とも閣下と緊密に協力の上、日本とタイの今後の協力関係を更に発展させ、アジア太平洋地域と世界の平和と繁栄のために貢献をしていきたいと思っております。

この日タイ修好百三十年を迎える大きな節目の年にあたり、タイ王室の一層の御繁栄並びに閣下及びタイ国民の御健勝と御多幸をお祈りいたします。

平成二十九年九月二十六日

日本国外務大臣

河野 太郎

タイ王国外務大臣

ドーン・ポラマツトウィナイ 閣下